



◇ わらしゃんど事業再開 ◇

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令のため、中止になっていた「わらしゃんど・えりもまるごと自然体験事業」が再開しました。

7月10日(土)は「野外活動の基礎」。8月に実施するキャンプ(日帰り)の練習をしました。

まずはテントの設営練習。子どもたちはテントの構造を理解すると、自分たちでどんどん進め、指導者の手を借りることなく設営できました。

午後は魚釣りや鹿角工作、昆虫採集を行い、魚釣りでは、何が餌になるかを探求し、ミズ、昆虫、ワラジムシ、おやつに持参したジャーキー等を餌にニジマスやイwanaを釣ることができました。



写真上: テントの設営
写真下: 魚釣りの餌探し

◇ 郷土資料紹介 ◇

今回は、「行李(こうり)」について紹介します。

行李は、柳や藤、竹などを編んでつくられたふた付きの箱です。

ももとは、単なる「かご」であったものが、ふた付きになって、室町時代には「舌切り雀」でお馴染みの「葛籠(つづら)」として普及しました。

麻縄や締め皮でふたが外れないように結ぶこともあります。

衣類や書物、身のまわりの物を入れて押入れや納戸にしまったり、嫁入り道具を入れたり、行李を担いで上京することもありました。

行李は風通しもよく、安価であったため、収納ボックスや旅行鞆として庶民の生活を支えていました。

また、柳でできたものを「柳行李」、藤でできたものを「藤行李」、竹でできたものを「竹行李」といいます。

なお、「行李」という名称は、中国語からきており、「旅の荷物」という意味です。



写真: 資料館に展示している「行李」

地名の由来 ～ ラショロスケ ～

松浦日誌は「ヲチヨロツケ」と書いていますが、原名は「オショロシケ」です。

語源は「オソ・ロ・ウシ・ケ」(Oso-ro-us-ke 尻・の所・をついた・所)の意味です。

海岸が小湾になっていて、内陸部に湾曲した平地のある地形です。

これとよく似た地形、地名としてオロソッコ「尻をついた凹み」というのが、北海道各地に残っています。

これは、むかしコタンカルカムイ(国土の創造神)が、ヨモギの棒にクジラの肉を刺して焼いていた時に、串が折れて驚いて尻もちをついた。その跡を「尻をついた凹み」だという伝承があります。

「オショロスケ」もその類であると考えられます。



写真：ラショロスケは、現在の南東洋です

郷土資料の寄贈がありました

7月3日(土)、歌別地区の方より、桐たんす一棹の寄贈を受けました。



写真：寄贈された「桐たんす」

北海道の七夕は8月7日

郷土資料館では、7月28日(水)から8月9日(月)まで、資料館ホールに七夕飾りを設置しています。

来館され、短冊にお願い事を書いてみてはいかがでしょうか。



写真：資料館ホールに七夕飾りを設置

8/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
○	○	休館日	わらしゃんど事業	わらしゃんど事業	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	8/1	2	3
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
○	○	○	生き物調査隊	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○

8月～9月の
開館カレンダー